掲載紙：２０１６年４月１３日付『プラーヴォ紙』第２０面
主題：（インタビュー）ヴラディミル・ドロウヒー　チェコ商工会会長　プラーヴォに語る
副題：企業は、労働力不足問題という難題に直面
記者：イジー・ヴァヴロニュ

質問１：どの様な職種で、何人の労働力不足に、チェコ産業会は直面しているのか？

「ド」氏：

昨年末、チェコ労働省職業安定局は、１０万人の需要があることを発表。産業界で最も必要とされているのは、職人及び修理工が２万２千人、さらに、機械オペレーター及び組み立て労働者等が２万１千人不足していると言われる。

チェコ商工会の会員調査でも明らかなように、雇用者の雇用機会創出努力もあり、雇用機会はさらに拡大傾向が続く。昨年第１四半期末時点で、７万２千人の雇用が創出された。

チェコ国内の失業者数は、現在、４６万７千人と言われているが、このうちの一部は、上記新規雇用に吸収されるだろう。

問題は、労働力の需要と供給にミスマッチが生じている点にある。需要と、供給地域や供給職種、供給資格がマッチしていない。

質問２：どの程度、ウクライナ人等の外国人労働者は雇用される可能性があるのか？

「ド」氏：

ウクライナ人のビザ問題に関して、チェコ商工会調査によると、ウクライナ人１万５千～２万人の需要がある。

質問３：チェコ企業各社は、既に独自に外国人労働者を手配しているのか？

「ド」氏：

はい。チェコ国内の有資格労働者不足から、現実的には、諸外国から労働力を集めてきている企業も存在する。この問題には、今日の難民問題も関係してくるが、商工会会員の意識調査では、アンケート回答者の４２％が、有資格難民を、労働者として受け入れたい旨回答している。つまり、チェコ企業の半数は、彼らの受け入れを希望しているということだ。

質問４：チェコ政府は、昨今、ウクライナよりの有資格労働者の受け入れパイロットプラン（有資格者のビザ発給要件の緩和）を提案し、実行に移しつつあるが、この次の具体的な手段としては、何をすべきか？

「ド」氏：

高資格ウクライナ人労働者の受け入れは必要不可欠だ。しかし、中資格、低資格ウクライナ人労働者の受け入れも大切で、これが上手くいかないと、チェコ企業が、労働力不足で、立ち行かなくなる。つまり、新規契約も取れないし、事業拡大も出来ないし、チェコから撤退し、労働力を容易に確保できる国へ移動する企業も出てくるだろう。

高資格労働者の外国からの受け入れだけでは、我々の工場は、一杯にはならない。工場は、

単純ライン労働者の不足にも直面しているからだ。この状況は、対策が実施されない限り、継続・深刻化することとなる。

質問５：では、何故、現在、チェコ政府は、外国人単純労働者が入ってこないように保護しているのか？

「ド」氏：

昨今の、欧州やチェコ国内における反難民・反移民の動きは、驚くばかりだ。我々の会員企業の半数は、チェコ語を話せなくても、有資格者で有れば、欧州以外の国から来た難民を、労働力として雇用することに前向きであり、３０％の会員は、彼らに、確実に仕事を与えると回答している。これは、現実主義的な企業経営者と、反難民主義に大きく影響を受けて凝り固まっている一般国民との差を浮き彫りにした。

質問６：難民が、資格を得られるようにするためには、どうしたら良いか？

「ド」氏：

企業は、無資格・低資格難民や、チェコ語が話せない難民にも、仕事をオファーすることだ。働きだせば、その後は、資格や経験が自動的についてくる。

質問７：外国人労働者は、チェコ人労働者と同レベルの賃金を受け取れるか？

「ド」氏：

これは、常に、雇用主に権限があり、賃金は、雇用内容や需要によって決定されるものだ。

（了）